

1. 目的 最近市販されている防菌防黴剤の繊維製品加工効果について検討された報告例は少ない。そこで今回は5種類の加工剤の *in vitro* における各種菌増殖阻止最小濃度と菌に対する特性および布加工効果について調べる。併せて市販されている「くっ下」他の衛生加工剤の加工効果についても検討した。

2. 方法

1) *in vitro* 試験: 9種類のバクテリア, 10種類のカビ, 7種類の酵母を用い, 被検剤5種類の希釈液を伴って, 平板菌落塗抹法で供試菌の増殖阻止最小濃度を求めた。

2) *in vivo* 試験:

① 被検剤をそれぞれ 1.0, 0.5, 0.25 % 液として, ビーカーに布重量の20倍量を入れ, 調整した木綿ブロード, 羊毛モスリンを別々に20分浸漬処理後, 乾燥して, JIS Z 2911-1981 カビ抵抗性試験法により湿式ならびに乾式法で試験した。

② 市販品については着用し, 耐水性についても調べた。

3. 結果

1) 5種類の防菌防黴剤の供試26菌種に対する増殖最小阻止濃度と, バクテリア, カビあるいは酵母に対する特性を明らかに知ることができた。

2) この試験方法では0.5%液加工でほぼ防黴効果があった。

3) 市販衛生加工製品は一般に加工しないものに比較して防菌防黴効果があった。しかしすべての菌に対して完全に阻止効果があるとは云えなかった。